

事務事業名	鬼怒水辺観察センター管理運営事業				担当	産業環境部 環境課(根本山) 鬼怒水辺観察センター	
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり			電話番号	0285-84-6439	
施策名	4	自然環境の保全と保護			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ	
法令根拠	真岡市鬼怒水辺観察センター設置及び管理条例					<input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 平成14年度~)	
予算科目	1. 一般会計	4. 衛生費	1. 保健衛生費	6. 鬼怒水辺観察センター費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度( 年度~ 年度)	
事業概要	民有地の砂利採取跡地に自然に水が溜まって池になり、オオバン等の水鳥が生育するようになった(現在のオオバンの池)。市は平成6年から用地買収・整備を始め、国の防災ステーションの設置により、鬼怒水辺観察緑地として平成14年に開所した。鬼怒水辺観察緑地は、センター90平方メートル、オオバンの池約7ha、トンボの池(国が造成)約3haの計10ha(うち河川占用約3ha:センター、トンボの池)の敷地があり、オオバンの池、トンボの池の自然環境と、そこに生息する貴重な生物を保全する。(オオバン、マダラヤンマ、オオキトンボは市の天然記念物指定)また、鬼怒水辺観察センターを中心に環境学習や自然観察の場として活用を図り、小・中学校等の団体利用に対応する。観察センター開館日は、水曜、土・日曜日、祝日。根本山自然観察センター職員が兼任し、自然観察指導及び管理作業の一部については、平成19年度から平成24年度までの6年間、真岡自然観察会に業務委託していた。会としての活動で草刈り等のボランティアも年数回あったが、会員の高齢化等で、管理が困難になったため、平成25年度より非常勤嘱託職員1名をおき、自然観察指導及び管理にあっている。主催事業等を開催し、施設の活用を図る。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段(主な活動) 27年度実績 ・自然観察及び施設の管理業務については、非常勤嘱託職員が専任従事した。 ・トンボの池の芝生やオオバンの池の草地等の定期的な草刈等を実施した。 ・トンボの池の水質維持のための水抜きとオオバンの池の浚渫を冬季に実施した。 ・根本山自然観察センター主催事業の開催場所を当センターで開催するなど、利用者の増加に努めた。  28年度計画 ・自然観察及び施設管理業務の適正な維持管理に努める。主催事業等を開催し、施設の活用及び利用者の増加を図る。	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)の推移							
	名称		単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
	ア	保全管理作業の実施回数	回	約65	約65	約65	約65	約65
	イ	真岡自然観察会の作業回数(平成24年度限り業務委託終了)	回	7	-	-	-	-
	ウ	体験教室の開催	回			0	2	2
	エ							
	オ							
	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)の推移							
	名称		単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
	ア	敷地面積	ha	約10	約10	約10	約10	約10
イ	センター利用者数	人	2,577	2,639	2,725	2,652	2,700	
ウ	市民	人	81,511	80,929	80,698	80,590	79,460	
	エ							
	オ							
	⑦成果指標(対象における意図された対象の程度)の推移							
	名称		単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
ア	植物の種類	種	約270	約270	約270	約270	約270	
イ	野鳥の種類	種	約60	約60	約60	約60	約60	
ウ	蝶・トンボの種類	種	約80	約80	約80	約80	約80	
エ	利用団体数	団体	14	16	16	20	20	
オ	市民の環境保全活動への関心の度合い	%	45.9	48.2	39.8	44.2	50.0	
	⑧上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移							
	名称		単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)
	ア	具体的な行動を実践している市民の割合	%	3.1	4.8	14.6	12.5	14.0
	イ							
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 ・オオバンの池、トンボの池の自然環境と生息する希少生物(オオバン、オオキトンボ、マダラヤンマ等) ・市民								
	③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) ・自然環境の保全、生息する希少生物の保護。水辺の自然の大切さについて、理解を深めてもらう。							
④結果(どんな結果(上位施策)に結びつけるのか) ・真岡市の自然環境保全の意識を高めてもらう。								
	⑥上位成果指標(結果の達成度を表す指標)の推移							
(2) 総事業費の推移		単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0
			県支出金	千円	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0
			一般財源	千円	3,839	3,270	3,043	3,324
	事業費計(A)		千円	3,839	3,270	3,043	3,324	3,362
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2
		延べ業務時間	時間	392	266	256	258	258
		人件費計(B)	千円	1,647	1,081	1,081	1,081	1,081
	トータルコスト(A)+(B)		千円	5,486	4,351	4,124	4,405	4,443

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か? いったいどんな経緯で開始されたのか?	砂利採取跡地(民有地)に自然に水が溜まり、池(現在のオオバンの池)になり、オオバン等が生息するようになった。市は、平成6年から用地買収・整備を始め、平成14年に開所した。
②事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	平成21年に二宮町との合併により、旧二宮町の小学校等の利用もあり、総数3,800人に利用者が増加したが、平成23年以降は、福島原発の放射能の影響もあり、それを境に利用者が減少した。利用者増を図るために、根本山自然観察センター主催事業の開催場所を当センターで開催することなどに努め、少しずつであるが、利用者が増えつつ傾向にある。団体利用の内訳は、地域子ども会育成会や小・中学校、市内外の自然観察会等が利用している。
③この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	利用者より、貴重なオオバンやトンボが生息している場所なので、大切に保全して欲しいとの要望がある。

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある センター活動が、水辺の動植物を対象とした環境学習活動であり、真岡市の自然環境の保全に結びついている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市が管理運営する施設である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 全市民を対象とした環境学習施設である。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 入館者や自然観察の参加者等は順調に確保されている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 自然環境や希少生物が失われるだけでなく、自然を大切にしようとする意識が薄れる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 管理運営するための必要最小限の経費である。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 管理運営するための必要最小限の人件費である。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 全市民が対象である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> : 目的妥当性 <input type="checkbox"/> : 有効性 <input type="checkbox"/> : 効率性 <input type="checkbox"/> : 公平性 ) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							